

山口情報芸術センター [YCAM] 教育普及プログラム

「コロガルパビリオン」

2014年8月1日(金)―8月31日(日) 10:00―18:00 入場無料
山口市中央公園

コロガルパビリオン再開！

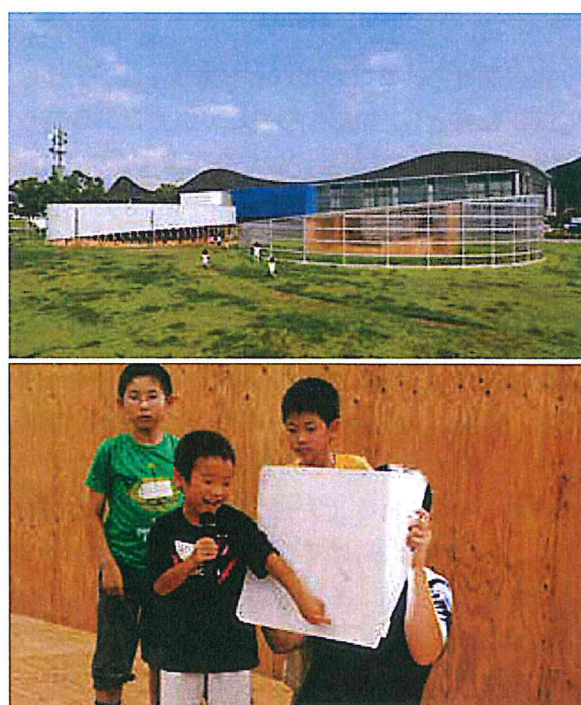
子どもたちが創造する〈メディア公園〉が帰ってきます

山口情報芸術センター [YCAM] では、昨年の YCAM10周年記念祭で好評を博した公園型インスタレーション「コロガルパビリオン」を1ヶ月間の期間限定で再開いたします。

コロガルパビリオンはメディアと身体の両方を使って遊ぶことができる新しい公園です。子どもたちの感覚を刺激し、自発的な「遊び」の創造を促す場として、昨年約4ヶ月間の会期中に4万7千人ほどの人々が訪れ、大盛況を博しました。その一方で、会期終了が近づくにつれ、利用者の間で会期延長を求める声が強くなり、子どもたちを中心に署名運動がスタート。約1000人の署名が集まり、今回の再開という運びとなりました。

今年のコロガルパビリオンは、子どもたちからリクエストがあったメディアテクノロジーを駆使した装置が新たに増設されるほか、YCAMで開催中の展覧会との連携プログラムを予定しています。

利用者自らが使い方を考え、運営にあたるコロガルパビリオンは、今日の社会で生きるための知恵や想像力を育む糸口になるでしょう。この機会にぜひご参加ください。



(上)「コロガルパビリオン」外観
(下)「子どもあそびはミーティング」の様子

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター [YCAM]

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

みんなの声で再開する「コロガルパビリオン」



署名運動の様子

今回再開する「コロガルパビリオン」は、子どもたちが自発的に遊びを発想し、知恵を獲得していくという新しいタイプの遊び場としてYCAMが制作した公園型インスタレーションです。2013年7月から約4ヶ月の会期中に、4万7千人ほどの子どもたちがコロガルパビリオンに訪れ、大盛況を博しました。

再開の経緯、署名運動について

コロガルパビリオンを利用する子どもたちは、自らイベントを企画・開催し、参加者を募ったり、YCAMが定期的におこなう掃除やメンテナンスを手伝うなど、コロガルパビリオンのことを、一方的に与えられる〈サービス〉ではなく、自分たちで使い方を考え、その実現に向けて手を動かす、利用者のための利用者の〈環境〉として捉え、さまざまな遊びを生み出してきました。

そんな中、ほとんど毎日この場所に来ていた山口市内の小学3年生を中心とする子どもたち数人が、会期が終了する2週間前に、会期の延長を求める署名運動を開始しました。

彼らの運動は公園を飛び出し、周囲の大人も巻き込みながら、2週間あまりで約1000人の利用者から署名を集めることに成功し、YCAMへと提出。山口市も子どもたちの思いを認め、この8月から1ヶ月の期間限定で再開をすることになりました。

利用者の子どもたちは、この一連の過程を通じて、遊びの創造を超えて、自分たちの手で社会を変えていく可能性に触れるという、学校ではなかなか学ぶことのできない経験を得ることができたようです。このことが、大盛況以上に、コロガルパビリオンが達成した大きな成果の1つと言えるかもしれません。

■「コロガルパビリオン」

2012年にYCAMが発表した、メディアテクノロジーを活用した多様な仕掛けと不定形な床面からなる公園型インスタレーション「コロガル公園」を、建築家ユニット「assistant（アシスタント）」との協働のもとバージョンアップさせたもの。YCAM10周年記念祭の一環として開催した。

会期：2013年7月26日～12月1日

会場：山口市中央公園

メディアでつながる山口と札幌の子どもたち—コロガルパビリオンの新機能



「子どもあそびばミーティング」の様子

コロガルパビリオンは、大小2つの円筒形の建築から構成されています。小さな方はぐるぐると猛スピードで走り回れるようになっており、大きな方は内部に設置された複雑な形状の床面を動きながら、身体感覚を捉え直すような感覚が得られます。非常に対照的な2つの建築ですが、両者ともに空間内の随所に照明や音響装置などのメディアテクノロジーが組み込まれており、利用者は試行錯誤の中で、メディアと身体の両方を活かした新しい遊びを生み出すことができます。

山口⇄札幌で繋がる、新機能がさらに充実！

今年のコロガルパビリオンでは、同時期に札幌で開催される札幌国際芸術祭の「コロガル公園inネイチャー」とコラボレーションをおこないます。

山口市だけで遊びを生み出すのではなく、札幌の子どもたちと会場同士をネットワークでつないで、一緒に新しい遊び方やルールなどを生み出せるようになります。また、子どもたちからリクエストがあった設備が新たに増設されるほか、今年7月から9月にかけて開催する展覧会「MEDIA/ART KITCHEN YAMAGUCHI—地域に落ちるアジア：参加するオープン・ラボラトリー」の一環として、子どもたちとメディアテクノロジーを使った遊びを発明するワークショップを開催し、コロガルパビリオンとの連携をおこなう予定です。

■ 札幌国際芸術祭2014

札幌初の国際的なアートフェスティバル。YCAM10周年記念祭で総合アーティスティックディレクターを務めた音楽家の坂本龍一をゲストディレクターに迎え、「都市と自然」をテーマに開催。

YCAMからは坂本龍一とのコラボレーションによるインスタレーション作品「フォレスト・シンフォニーinモエレ沼」と、YCAMと建築家・五十嵐淳とのコラボレーションによる「コロガル公園inネイチャー」が参加する。

開催期間：7月19日（土）～9月28日（日）

会場：北海道近代美術館、札幌芸術の森美術館、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）、北海道庁赤れんが庁舎、モエレ沼公園、札幌市資料館、札幌大通地下ギャラリー500m美術館 ほか

開催概要

「コロガルパビリオン」

2014年8月1日(金)ー8月31日(日) 10:00ー18:00 ※火曜休み

入場無料

対象：小学生以上 ※未就学児童は要保護者同伴

山口市中央公園

※本展示はお客様の自己責任のもと鑑賞したり、遊んだりする体験型スペースです。入場の際は自己責任で入場する旨をご承認いただき、安全管理には十分ご注意いただいた上でお楽しみください。

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

協賛：大塚製薬株式会社

機材協力：カラーキネティクス・ジャパン株式会社

技術協力：株式会社ユニバ

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

関連プログラム

コロガルファクトリー

「体」と「メディア」を用いたワークショップを開催。

「あそび」から広がるアイデアをおもいきり実験できます。

日時：8月17日(日)、24日(日) 14:00ー16:00

参加無料 ※先着順

対象：小学4年生以上 定員：各回5人

会場：ホワイエ内特設会場

関連プロジェクト

札幌国際芸術祭2014

「コロガル公園inネイチャー」supported by 札幌丸井三越

日時：2014年7月19日(土)～9月28日(日)

会場：札幌市資料館

関連企画

「MEDIA/ART KITCHEN (メディア・アート・キッチン) YAMAGUCHI:

地域に潜るアジア参加するオープンラボラトリー」

地域社会に根差した実践的な活動を展開している日本と東南アジアの若手アーティストの取り組みを紹介する参加型の展覧会。会期中には音楽家の大友良英によるコンサートのほか、参加アーティストによるワークショップやシンポジウムも開催。

会期：7月5日(土)ー9月28日(日)

会場：山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ、2階ギャラリーほか

参加アーティスト／機関：HONF Foundation (インドネシア)、ヴェンザ・クリスト (インドネシア)、パニ・ハイカル (シンガポール)、オペラシ・キャッサバ (マレーシア)、田村友一郎 (日本)、YCAM地域開発ラボ (日本)



札幌国際 芸術祭2014

コロガル公園 in ネイチャー Korogaru Park in Nature

2012年に山口情報芸術センター[YCAM]で発表された「コロガル公園」は、不定型で起伏のある木の空間に、マイクやLED照明など「メディア」を使った仕掛けをもつことで、子どもたちが新しい動きや遊びのルールを生み出すことを触発するインスタレーションです。SIAF2014（札幌国際芸術祭2014）では、この「コロガル公園」が、初の屋外バージョンとして、大通公園の西に位置する札幌市資料館の庭にこれまでにないかたちで出現します。設計は、北海道を拠点に国内外で活躍する建築家・五十嵐淳。都心にありながら緑豊かな環境と呼応させるべく、自然素材を活用した「公園」が構想されています。

会期中には、ワークショップ「子どもあそびばミーティング」を複数回開催予定。追加したい遊びや機能を話し合うことで、期間中にアイデアがコロガル公園に反映されていく予定です。日差しや風など、刻々と変化する環境の中、子どもたちが、自然、自分たち、そしてメディアと向き合いながらそれらを創造的に結びつけていくユニークな機会を創出することになるでしょう。

■日程

2014年7月19日(土)～9月28日(日)

■会場

札幌市資料館

■担当

四方 幸子(アソシエイト・キュレーター)

■協力

山口情報芸術センター[YCAM]

■参加アーティスト

YCAM InterLab + 五十嵐 淳
(YCAM InterLab + Jun Igarashi)

■ディレクション/研究開発:

YCAM InterLab

■設計: 五十嵐 淳

■メディア・ディレクション:

杉本 達應、須之内 元洋、棟方 渚





いま、子供たちに
どんな「学び場」が
必要なんだろう？

コロガルパビリオン

子どもたちが創造する屋外メディア公園

2014年8月1日(金)ー8月31日(日) | 10:00ー18:00

山口市中央公園 | 入場無料 | → <http://koropavi.tumblr.com/>

01

あたりの〈環境〉としてのメディア

翔ぶ、跳ねる、駆け巡る！ 送る、鳴らす、光らせる！ 頭とカラダで遊びを創るメディア公園

コロガルパビリオンは、メディアと身体を使ってめいっぱい遊べる新しい形の公園です。山の子どもが山を、海の子どもが海を知っているように、現代に生きる子どもたちにとってメディア環境の中で試行錯誤を繰り返しながら思考する場を目指しました。

不安定な床面や重力をつかった“身体的な遊び”と、光や音、さらには風や雨など自然環境をも含む“メディア的な遊び”が混在しています。この公園には決まったルールや使い方はありません。利用者自身のアイデア次第で、環境が“コロガル”公園です。

自然とテクノロジーが共存した、半屋外のパビリオン

風とwifi、太陽とLED、
雨音とスピーカーが分け隔てなく混ざり合う

コロガルパビリオンは、大小2つの円筒形の建築から構成されており、両者は外観の形状こそ似ていますが、その構造、性格は対照的です。設計は、建築を軸に横断的な活動を展開する「assistant (アシスタント)」が担当。

→ 小さな建築

「動」をテーマに設計されており、その中心に小さな庭が設けられ、その周囲を取り巻くように部屋が広がっています。部屋は競輪の競走路のように外周に向かって傾斜が付いており、猛スピードでぐるぐると走り回れるようになっています。

→ 大きな建築

「静」をテーマに設計されており、その中心に小さな部屋が設けられ、その周囲を取り巻くように、庭のような空間が広がっています。中心の部屋にはジャングルジムや不定形な床面が所狭しと並べられ、そこを移動する中で非日常的な身体の動きを発見することになります。

ここからジャンプするかしらないか、自分で判断する

「ボール遊びはいけません」「うるさくしてはいけません」昨今の公園にはこのような赤字の看板が目立ちます。公の園であるはずの場所が、禁止事項だらけの立ち寄り難い存在になりつつあります。看板を誰が何のために立て、どんな影響があるのか、そんなことに無自覚なまま従っているのは子どもも大人も同じなのかもしれません。このような状況を受けて、コロガルバビリオンでは頭ごなしの禁止を増やすのではなく、利用者自身の考える力を活かした運営を目指しました。

コロガルバビリオンの床面は急な傾斜や高さがある場所も少なくありません。

大人が決めた過剰な安全設計ゆえに欠落してしまう子ども達の創造性、自発性の育成を重点的にデザインしました。「ころがる、立ち止まる」といった身体的なノイズ、空間の拡張性などは遊びを通じて多くの発見を促します。危険に潜む子どもの育成の機会を十分理解した上で、強固な檻ではなく、子どもたちの段階に合わせたゆるやかな丘陵のような安全設計を心がけました。



コロガルバビリオン

子どもたちが創造する屋外メディア公園

04

みんなのアイデアで成長していくあそび場

子供のアイデア×YCAMの技術で、
一緒につくっていく自分たちの場所

コロガルパビリオンでは、利用者の声を実際に反映してきました。

去年小、中学生を対象に行った子どもあそびばミーティングでは、参加者がパビリオンに欲しい企画をプレゼンテーションし、「YCAM InterLab」のスタッフと実現に向けて話し合いを重ねていきました。最終的に採用されたアイデアは、その後InterLabのスタッフによって、実際に開発され、パビリオンの新しい機能として追加されました。

新しいアイデアが新しい遊びを生み、新しい遊びが新しい人をつなげ、拡張性のある建築にアイデアを実践していくことで、さらに大きな創造性を目指しています。

今年はYCAM館内の特設会場で「コロガルファクトリー」を開催します。

「体」と「メディア」を用いたワークショップを開催し、「あそび」から広がるアイデアをおもいきり実験できます。



コロガルパビリオン

子どもたちが創造する屋外メディア公園

「メディア」「社会」「身体」コロガル公園からみるこれからの学び場

変化する社会の中で、重要なのは、指示に従って行動する能力ではなく、柔軟性と想像力ではないでしょうか。

コロガルバビリオンは、メディアと身体を使ってめいっぱい遊びながら、自らの環境を自らが考え創造していくことを通し、頭でっかちの“知識”だけではなく、からだに染み付く柔軟性と想像力を持った生きる“知恵”を育む学び場です。

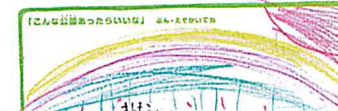
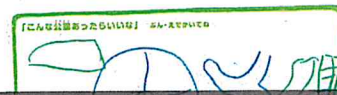
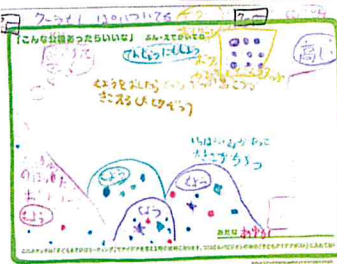
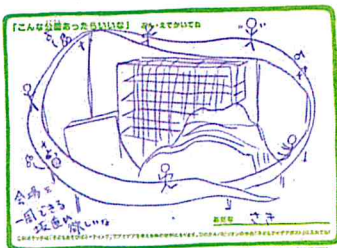
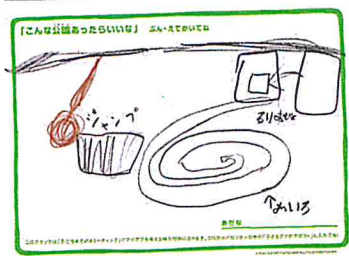
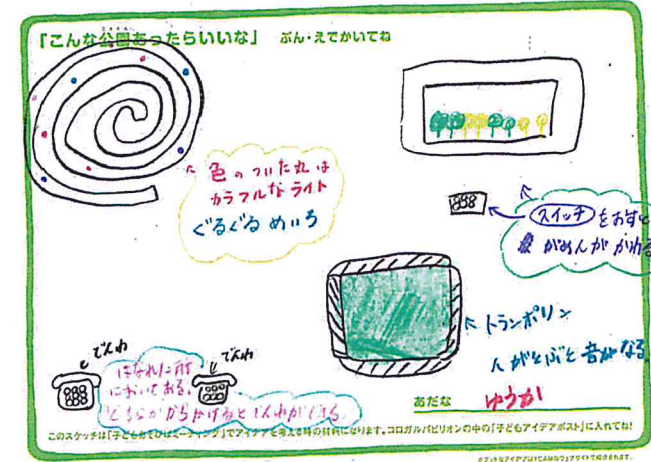
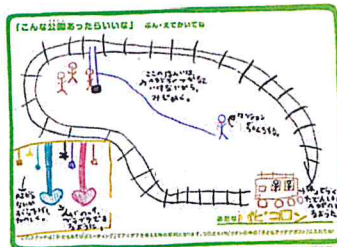
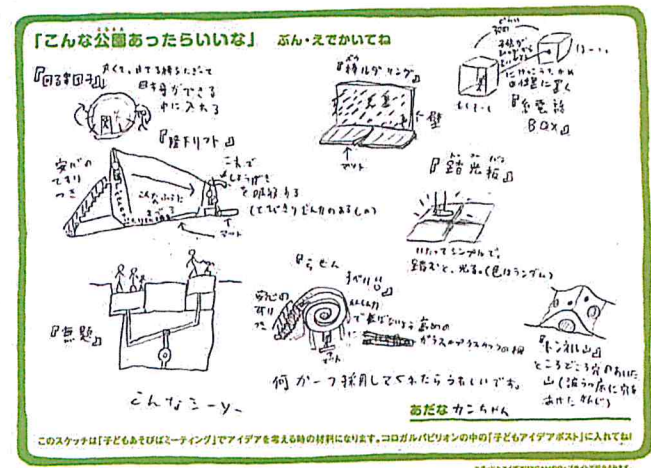
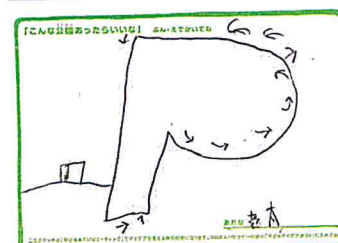
子どもたちは、会期中2回開催された「子どもあそびばミーティング」を通して、自分たちのアイデアが公園に実装され、遊び場環境が変化していくことを体験しました。その後、参加者を募るイベントを子ども達自らが開催したり、自主的に掃除やメンテナンスを手伝うなど、単に「サービス」として提供された公園を利用する立場ではなく、自分で考え手を動かし「環境を創造」してきました。

自治と公共性について、「実践の中で気づきを得て学習した経験が、署名活動へと繋がったのではないかと私たちは考えています。

テクノロジーやメディア環境がめまぐるしく変化する現代社会で、実際に行われているルール作りのプロセスを体験する。学校ではなかなか学ぶことができない経験の機会を提供できたことが、本プロジェクトの大きな成果の一つであるといえます。YCAMでは、今回の署名活動を受け、2014年8月1日から31日まで、コロガルバビリオンを特別開催する予定です。

また、札幌国際芸術祭2014でもコロガル公園 in ネイチャーを実施するなど、このノウハウを他の地域にも共有し、様々な形のコロガル公園を制作していきたいと考えています。





子どもアイデアスケッチ

「こんな公園あったらいいな」

コロガルパビリオンに設置していた、アイデアを投函できる自由記述型のスケッチです。自分の理想の公園を絵や文章で描いて投函することで、去年は子どもあそびばミーティング時の参考資料として使用されました。今年のコロガルパビリオンでは、同時期に札幌で開催される札幌国際芸術祭の「コロガル公園 in ネイチャー」とコラボレーションをおこない、札幌の子どもたちと会場同士をネットワークでつないで、一緒に新しい遊びやルールを生み出せるようになるほか、去年開催時に利用者から要望の多かったアイデアを、YCAM InterLabが複数採用し大幅にアップデートします。どんなアイデアが実現されるかは、来てからの楽しみ！